

# 俺が魔王であいつが勇者

デュランダル v 2

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

すいません。完璧にバカと魔術と転生人生がぜんぜん進んでいないのですがPCが友達の家でしか使えないのです。PSPで500文字で打てる物語をやっていきます。たぶん、駄文と言うより絶対になります。そして、超不定期更新+気まぐれ更新になります。

# 目次

俺が魔王!?

1

私が勇者!?

3



# 俺が魔王!?

目覚めるとそこは知らないグエ。

「テンプレ的語りを止めやがれ」

ととても綺麗な女性に殴られた。殴られるのにはあまりなれていないし、てか本当にここは何処なんだ？

「ようやく、お目覚めになりましたか、魔王様」

あれ、今ファンタジーの代名詞的な名前が聞こえたのですけど？

「あの、すいません。今、なんていいましたか？」

「ほら、ミデナ。わかってないよ」

「しかし、トラリー。もう彼しか頼れないのよ」

なんか不穏な話してるんだが・・・

「あなたは異世界から呼び出された、この世界の魔王になれるたった一人なのです。」

もう、一度だけ聞いておこうかな。たぶん、変わらないと思うけど。せめて、聞き間違いでありたい。てか、聞き間違いだ。

「どうか、私たちの魔王として助けてください」

俺は、叫びたくなった。

「まさか、本当になっちまうなんて!?! てか、役割違うだろうが!!」

# 私が勇者!?

えっと、ここ何処だろう？

「ようやく、勇者様がやってきました」

俺はなにやら喜んでいる少女はほっといて、周りを見ると三様の顔があった。さつきみたいな祝福するような連中、なにやら悩んだり話している奴等、まるで虫を見るよいなバカ共、たぶん国の官僚かなんかだと思うが、ここ何処なんだ？

「はじめまして、勇者様!! 私、ロート王国の王女しています。フラウ・ユヴェリーともうします。勇者様のお名前はなんと言うのですか?」

怒濤の言葉に少し呆れた。少しはこっちにも情報くれないかな? まあ、合わせるかな? ?

「私の名前は黒沢旭（くろさわ あきら）と申します。あの、勇者と言うのはどういうことですか?」

「クロサワ・アキラさんと申されましたか? それについては説明させて頂きます。まずは、こちらにきてください、アキラ様」

そう言って別室に案内された。後ろからいろんな視線を受けながら。